

浜口医師の人工ひざ関節の論文が『関節外科』(メジカルビュー社)に掲載されました!!

Mobile-bearing UKA: Oxford partial knee



『関節外科(メジカルビュー社)』表紙

CONTENTS Vol.40 No.9 2021 9

特集 UKAの適応と手技の最前線

企画・編集: 岡崎 賢

5	introduction	岡崎 賢
6	UKAの臨床成績アップデート	島島海人ほか
12	画像診断におけるUKAの適応	奥山新一ほか
20	若年者・活動性の高い患者に対するUKA —スポーツや労働はどの程度まで可能か?	松 洋
27	肥満、ACL不全・関節リウマチは 本当にUKAのcontraindicationか?	宇野直文
32	UKAにおけるJoint line	岡崎 賢
36	Persona® partial kneeを用いた fixed-bearing UKAの手術手技と注意点	石塚一博ほか
47	Mobile-bearing UKA: Oxford partial knee	浜口英寿
58	Fixed-bearing UKA: TRIBRID® unicompartmental knee	森 正樹ほか
69	ロボティクス UKA: Mako システム	中川 匠ほか

目次



11ページにわたり掲載された本稿(一部)

人工ひざ関節特集号で『Oxford型UKA』の手術解説を浜口医師が担当

浜口医師のコメント:UKAとは膝の内側だけを取りかえる人工関節のことです。Oxford型UKAは、45年前にオックスフォード大学で開発され、一般の人工関節に比べて回復が早く、20年以上長持ちする実績が証明されています。今回は特集号編者の東京女子医大 岡崎教授より執筆依頼のお声をいただき、伝統のあるOxford UKAの手技解説を専門誌に掲載させていただく機会を得たことは大変光栄ですし、患者さんに安心して当院でUKAを受けていただける判断材料の一つになるかと思えます。

Oxford UKA:ひざの内側に金属部品と人工軟骨を挿入して痛みを改善



我汝会さっぽろ病院 整形外科部長 浜口英寿のOxford UKAの実績

- Oxford UKA使用例: 500例以上(2008年~)
- 2011年からOxford UKAの日本人指導医として国内・海外で活動(日本の指導医は17人。北海道内は1人)
- 2011年と2016年にオックスフォード大学で行われたOxford UKAセミナーに招待参加。開発者のO'Connor先生やMurray教授などから直接指導を受けるとともに後進の指導にも当たる。

